

体育会学生の就職活動状況調査（2020年10月）

2020年10月

新型コロナウイルスの影響が残る中、不安を抱えた状態で就職活動がスタートしています。アスプラでも9月から本格的に3年生に向けたサービス展開をスタートしています。今回、10月時点での「アスプラ2022」利用学生へ今年度初めてのアンケート調査を行いました。

【調査概要】

調査対象：『アスプラ2022』に登録している体育会学生

回答件数：370件

調査方法：インターネット

調査期間：2020年10月7日～10月12日

【TOPICS】

▼就職活動を始めた時期

就職活動を3年生の7月までに始めている学生が、2020年10月初旬までに登録している学生の半数以上を占める。体育会学生であっても早い時期から就職活動を始めている。

▼インターンシップについて

インターンシップについては半数以上が参加経験あり。参加希望者を合わせると96.2%が就職活動のスタートとしてインターンシップ参加を検討している。

▼就活を終了しようと考えている時期

最も多いのが「納得のできる企業から内定がでたら終わる（6月以前）」で40.0%を占めている。今年には特に、企業も学生の動きに合わせて前倒しで動いていく必要があると言えるだろう。

<本資料について>

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。
資料のご利用やご質問等に関しては、下記までご連絡ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社アスリートプランニング 広報担当

Tel: 03-5937-8460（受付時間：9:00～18:00/土日祝日を除く）

Mail: athlete2022@asupura.com

◆就活手法について

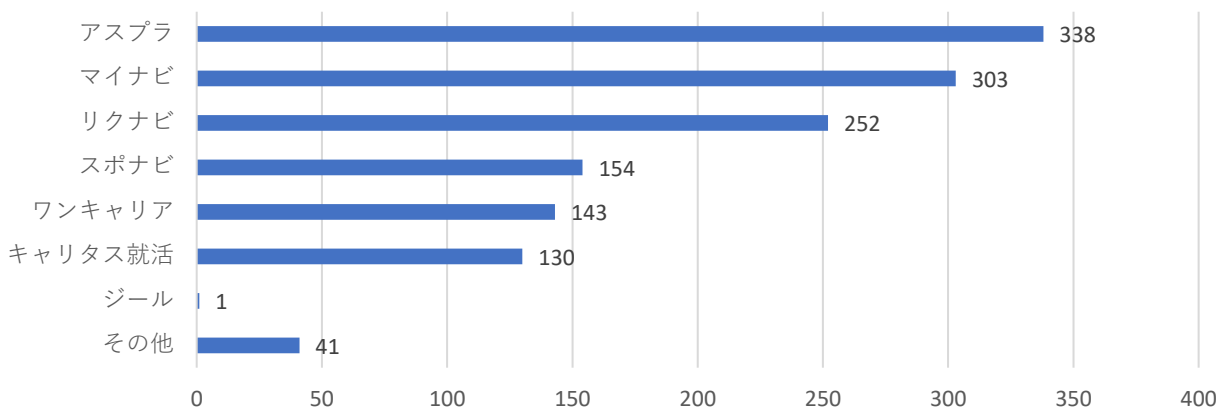
○利用しているサービスについて

アスプラに次いでマイナビ、リクナビの登録数は例年通り高い数値を出している。回答学生の就活サービスの平均利用数は約3.7個（延べ回答数1362票/回答人数370人）となった。マイナビ、リクナビの他にも就活支援のサービスを利用している学生が多数いることが分かる。その他の回答数は41票となり、この中でも最も多かったのは『外資就活ドットコム』で10名が登録をしている。

また【就活サービスを選ぶ基準はなにか】図2については「情報量の多さ」「手軽さ(操作)」などが最も多く、ネット社会の今、より手軽に多くの情報を学生は効率よく取得することに注力していることが分かる。

現時点で登録している就活サービス（図1）

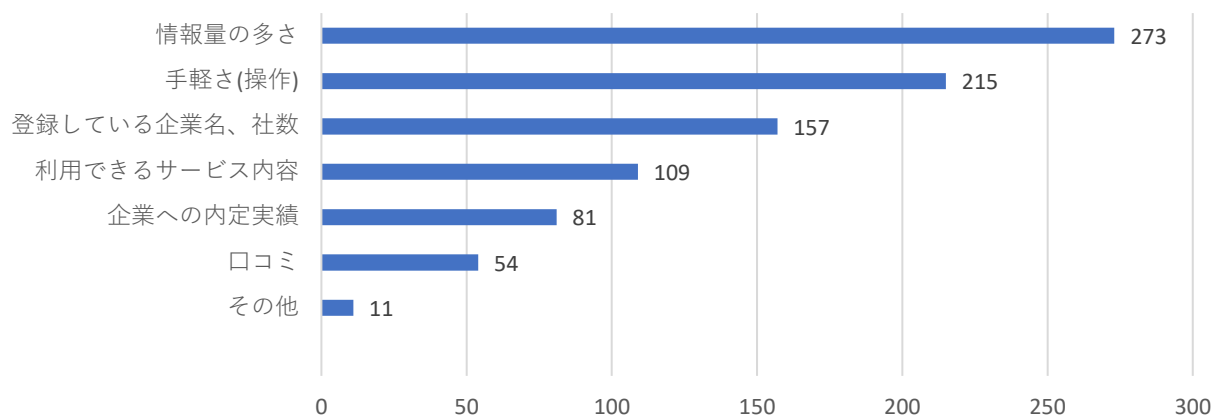
※複数回答可



※その他回答実績： 【10名】外資就活ドットコム 【5名】あさがくナビ、OfferBox 【3名】エンカレッジ
 【2名】キミスカ、就活キャンパス「プレスタ」、ブンナビ 【1名】b-lab、iroots、レクミー、Neotradition、doda キャンパス、サポーターズ、unistyle、DEiBA Company、株式会社もとい、ジョブコミット、ジェイシップ、Tsunagaru 就活

就活サービスを選ぶ基準はなにか（図2）

※3つまで選択可

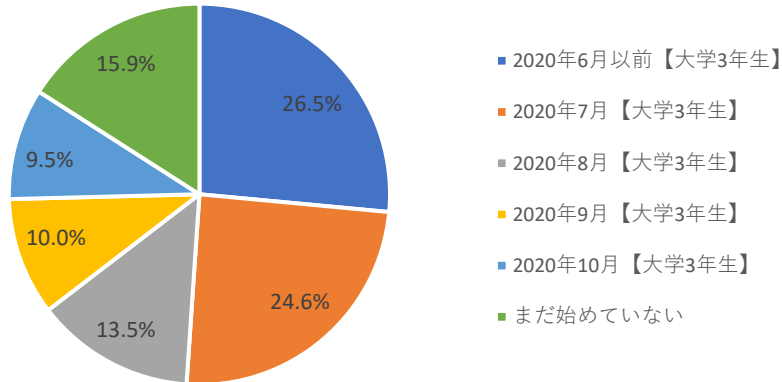


◆就職活動の状況について

○就職活動開始の時期

就職活動を3年生の7月までに始めている学生が、半数以上を占めていることがわかる。一般学生だけでなく世の中の早期化に伴い、体育会学生であっても早い時期から就職活動をしていることが分かる。

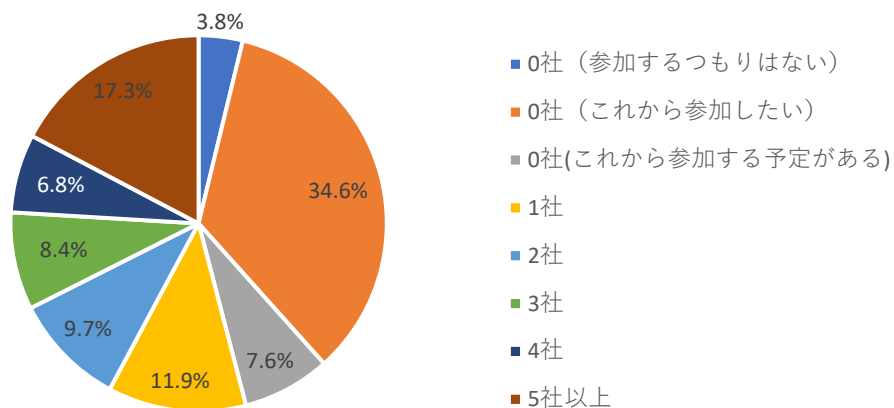
就職活動を始めた時期



○インターンシップ参加状況

学生が就職活動を始めるきっかけとして参加するインターンシップについては半数以上がすでに参加経験があり、これから参加希望の学生を合わせると96.2%がインターンシップに参加する（予定）ということになる。2年前に実施したアンケート（当社調べ：2020卒学生対象）の結果「0社（参加するつもりはない）」は12.4%であったことから、インターンシップ参加への意識は確実に強まっていることが分かる。

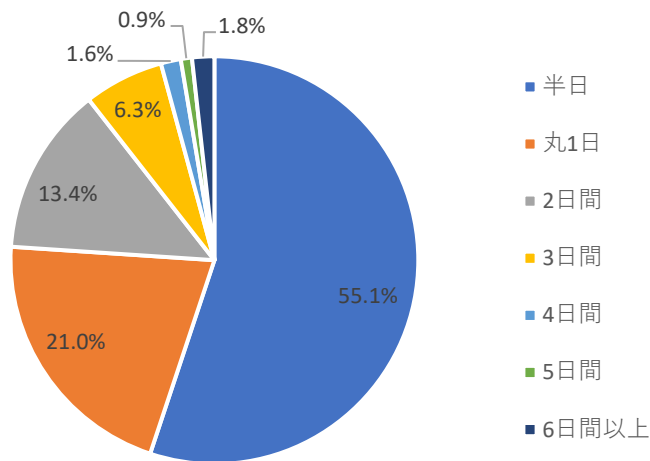
インターンシップ参加社数



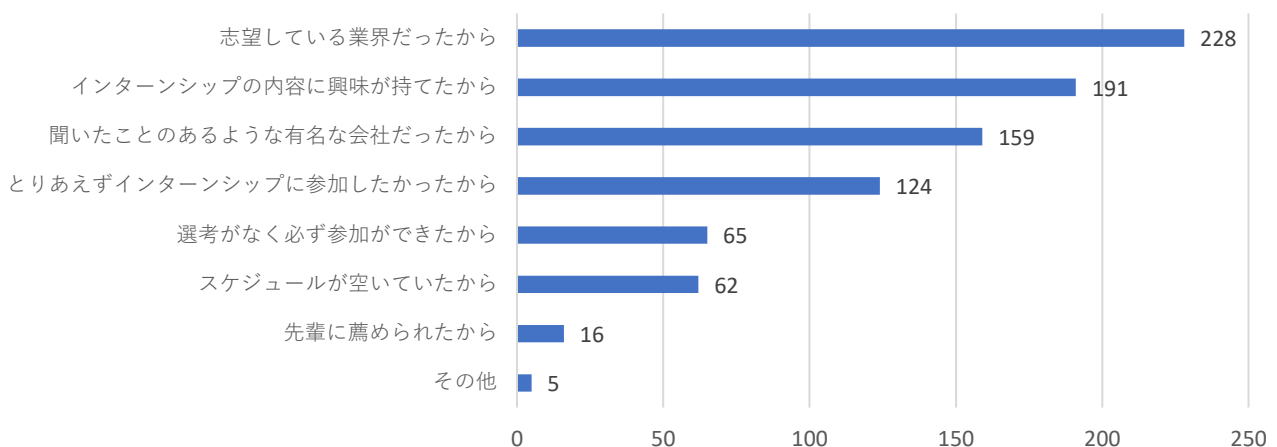
既にインターンシップに参加したことがある学生の内 55.1%が半日のインターンシップに参加している。部活動や授業で時間を確保するのが難しい体育会学生にとっては、企業理解や職場体験を目的としたインターンシップより短時間で企業と接点を持つことのできるインターンシップを優先して選ぶ可能性が高い。

また、多くの企業がインターンシップを実施する中で学生がどのように企業を見つけ、参加を決めるのかという点にも着目しておきたい。志望業界が明確になっている学生はピンポイントでインターンシップの情報にたどり着けるが、志望業界どころか何をしたらよいかわからない学生については図2で2番目に多い「インターンシップの内容に興味を持てた」にもあるようにインターンシップの内容を見て選択する学生も多くいることが分かる。

インターンシップの参加日程について

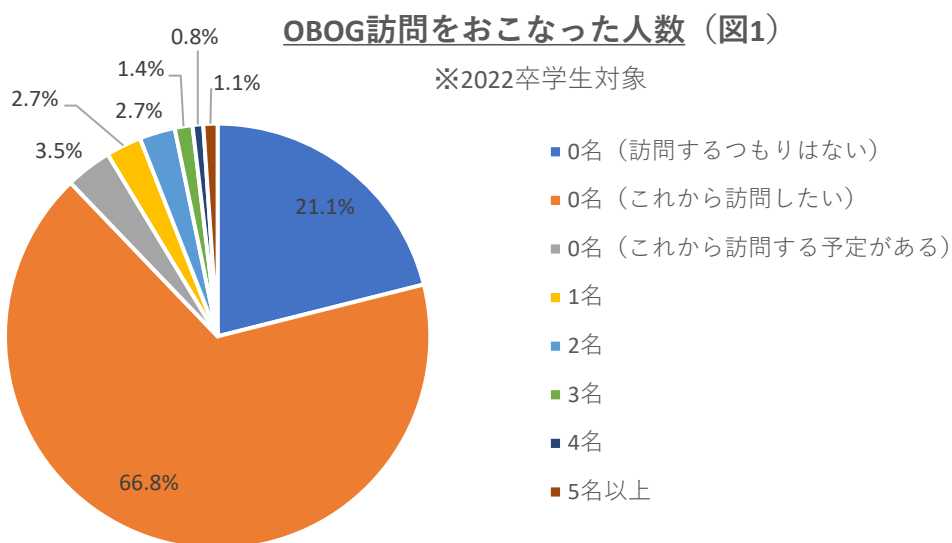


インターンシップに参加する企業の選び方について

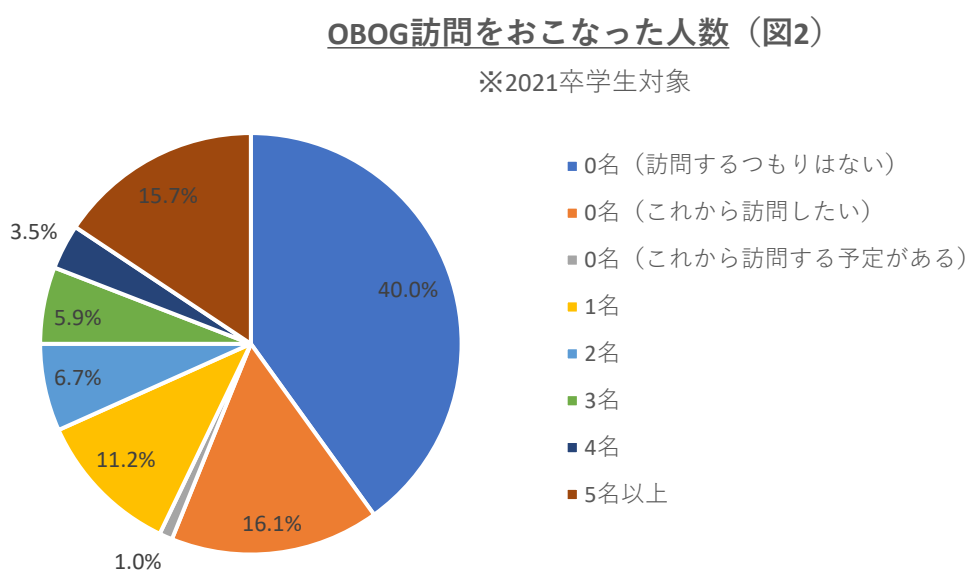


○OBOG訪問について

図1からもわかる通り、OBOG訪問を希望する学生は8割近くを占める。体育会といえば部活動を通してOBOGとの関わりが多いイメージもあるが、就職活動の観点で考えると志望業界に就職しているOBOGを探し、アポイントを取って訪問することはハードルが高いように思える。図2は2021卒学生を対象に【OBOG訪問をおこなった人数】に対する回答データであるが、5月の段階でOBOG訪問を実施もしくは希望する学生は6割までに減っている。現段階でOBOG訪問を希望している学生の何割が実際にOBOG訪問をおこなえるのか、今後の動向を見ていきたい。



対象 2022 卒学生（3年次10月データ）



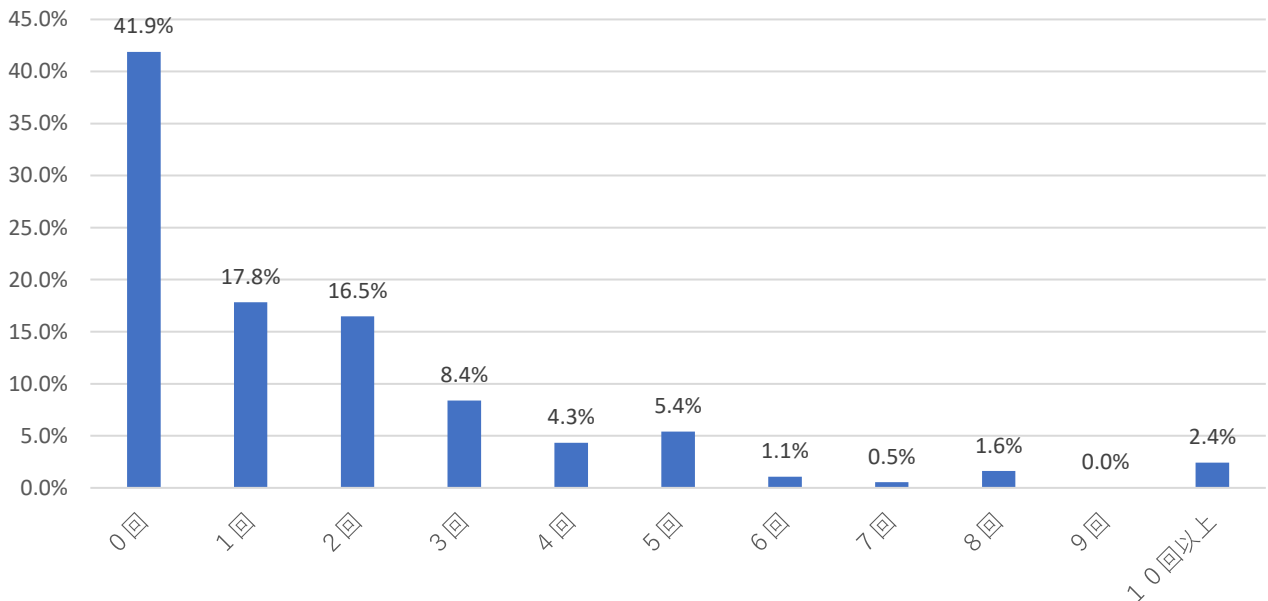
対象 2021 卒学生（4年次5月データ）

○合同企業説明会について

10月の段階で合同企業説明会に参加したことがある学生は58.1%と半数を超えている。11～12月が合同企業説明会開催のピークとされている例年に比べ、今年はこの時期に半数以上が参加していることから『合説離れ』が例年に比べ更に早まる可能性が高い。

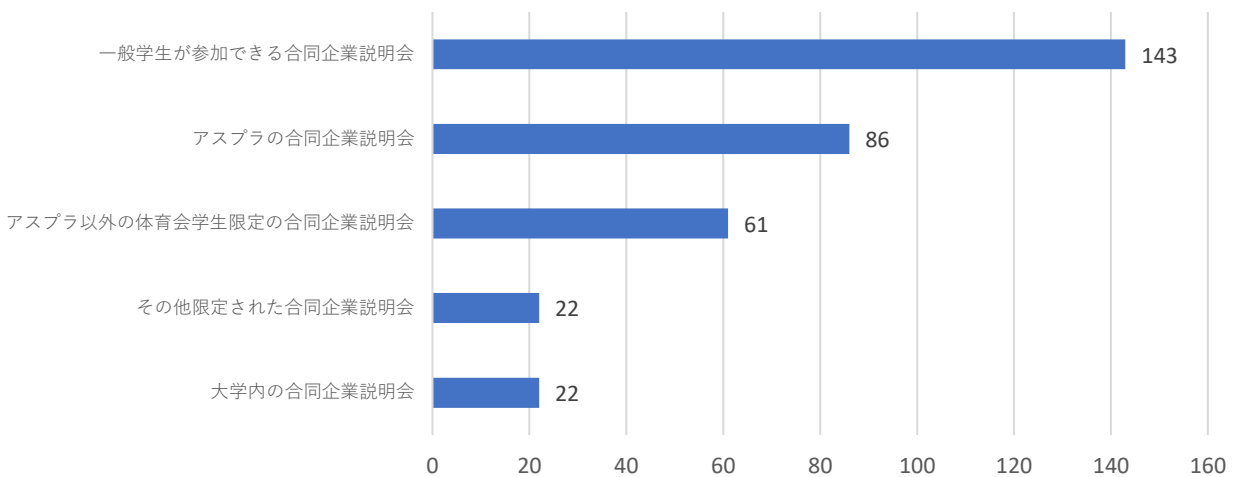
また、どの合同企業説明会に参加するかという点においても、新型コロナウイルスの影響で例年実施される大型対面の合同企業説明会が中止になっている影響もあり、今後どのような就活イベントに学生が参加していくのか動向を見ていきたい。

合同説明会の参加数について



参加した合同企業説明会の種類について

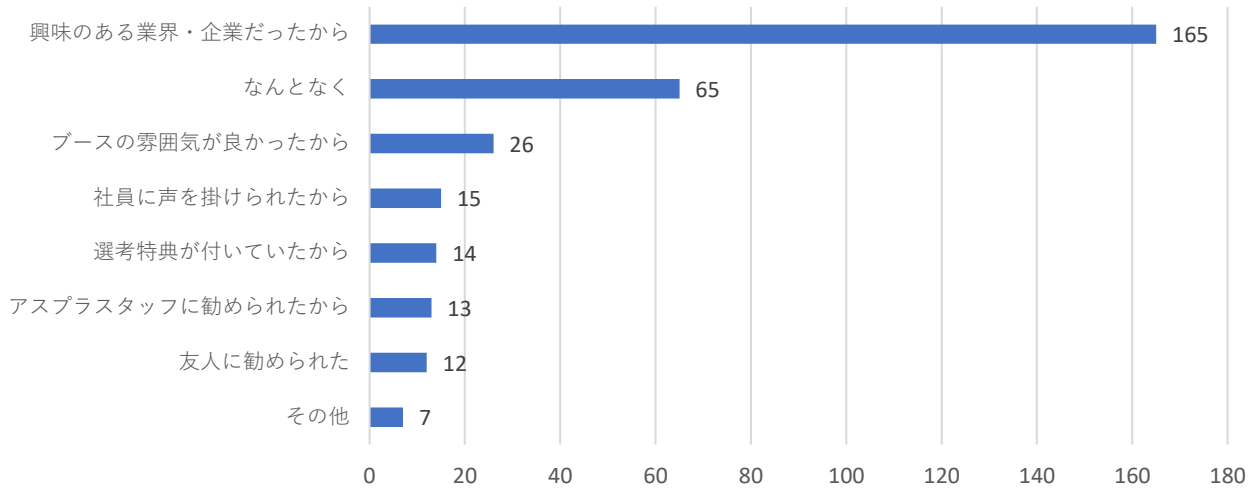
※複数回答可



合同企業説明会に参加した学生の内、半数以上がブース着席のきっかけとして「興味のある業界・企業だったから」を選択しているが、裏を返せば残りの半数は合同企業説明会当日に決めているということになる。特に「なんとなく」と回答している学生をブースに呼び込む工夫ができれば、企業も着席数を伸ばすことが十分に可能ということが予測される。

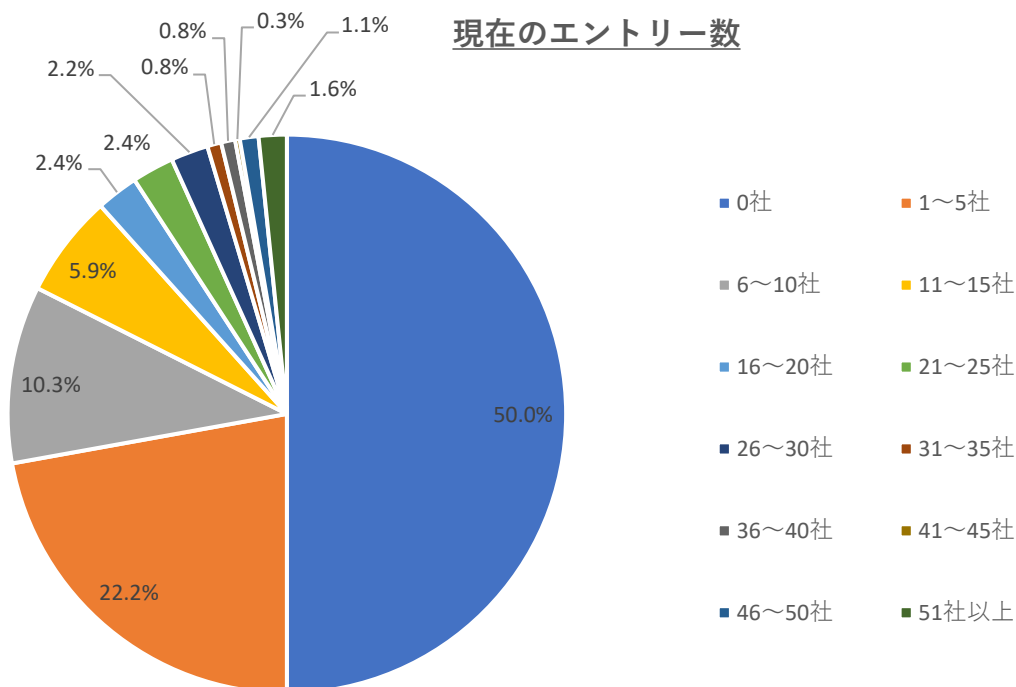
合同企業説明会でブースに着席しようと思ったきっかけ

※3つまで選択可



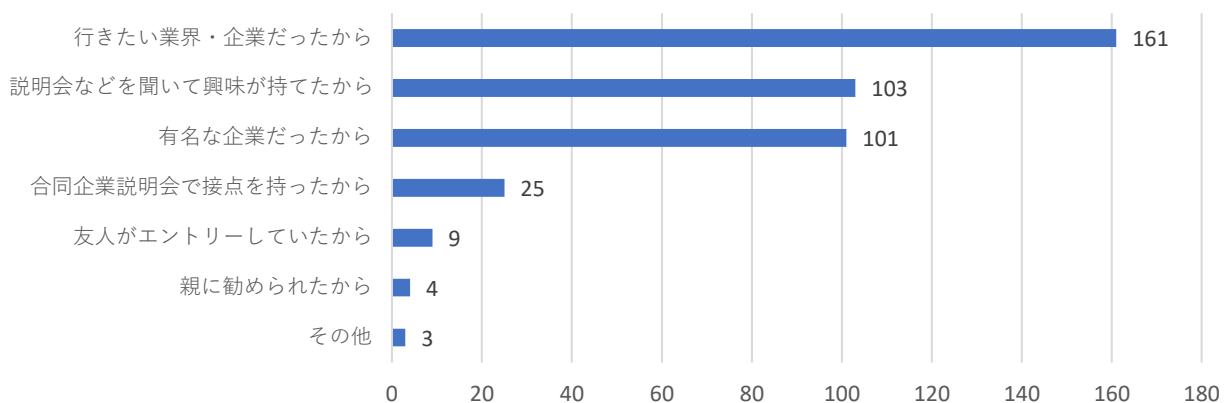
○エントリーについて

10月の時点で既にエントリーを開始している学生は50.0%という結果が出た。社数はまだ少ないものの、インターンシップを含め企業の選択に入り始めているという事が分かる。この時期に選考を始める企業は内々定を出す時期が早い可能性も高く、部活動に早く戻りたいという少数の学生については選考の準備も始まっていることが予測される。



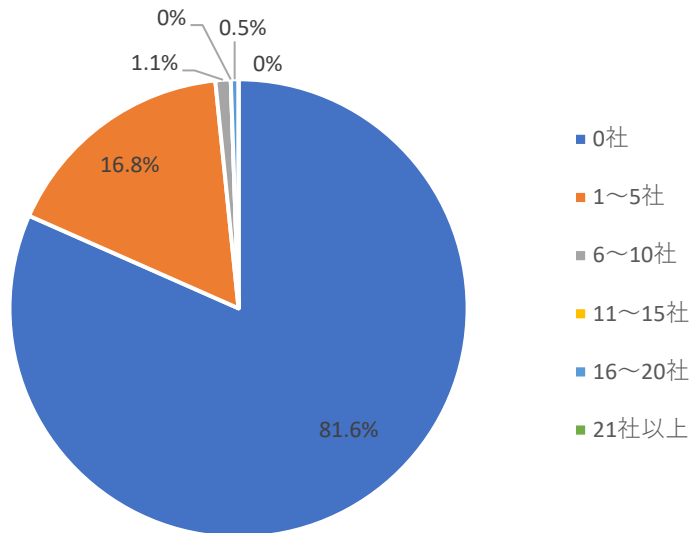
エントリーした理由

※3つまで選択可

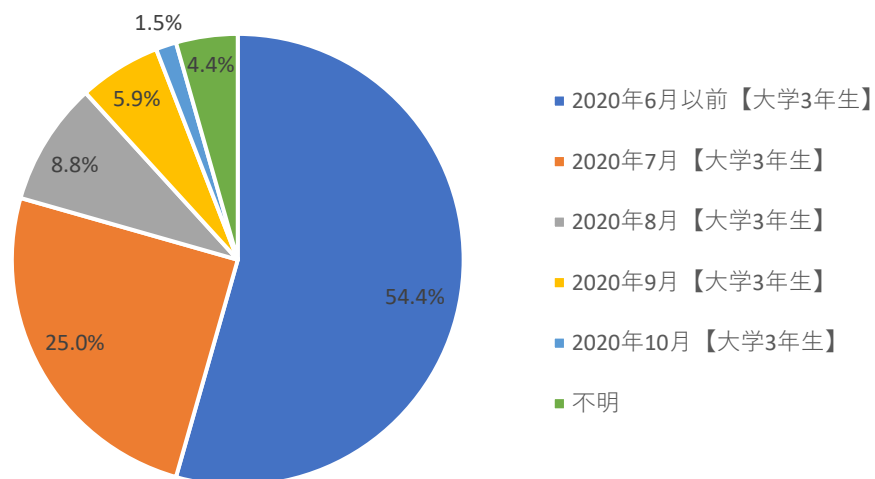


実際に面接に参加した学生はまだ少数だが、20%近くの学生は選考を経験していることになる。図2にもあるように、面接に参加した学生の半数以上が就職活動を大学3年生の6月以前にスタートしている。インターンシップや説明会等で企業との接点を持ち始めた学生は、時期関係なく就職活動を進め始めている。後でも述べるが、既に内々定を取得している学生については4人中3人がこれに該当する。

面接に参加した企業数（図1）



面接に参加した学生の就職活動開始時期について（図2）



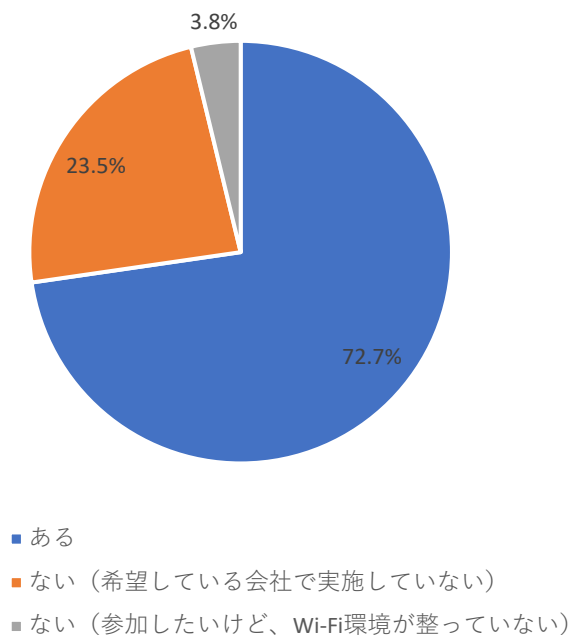
◆オンライン選考の状況について

○オンライン選考について

2021卒採用から各企業が採用手法として取り入れている「オンライン選考」については、2022卒採用も継続している。学生側としては大学の授業等でもオンラインが利用されている為、昨年と比べてオンライン選考向けの準備が整っており混乱等は少ないようだ。

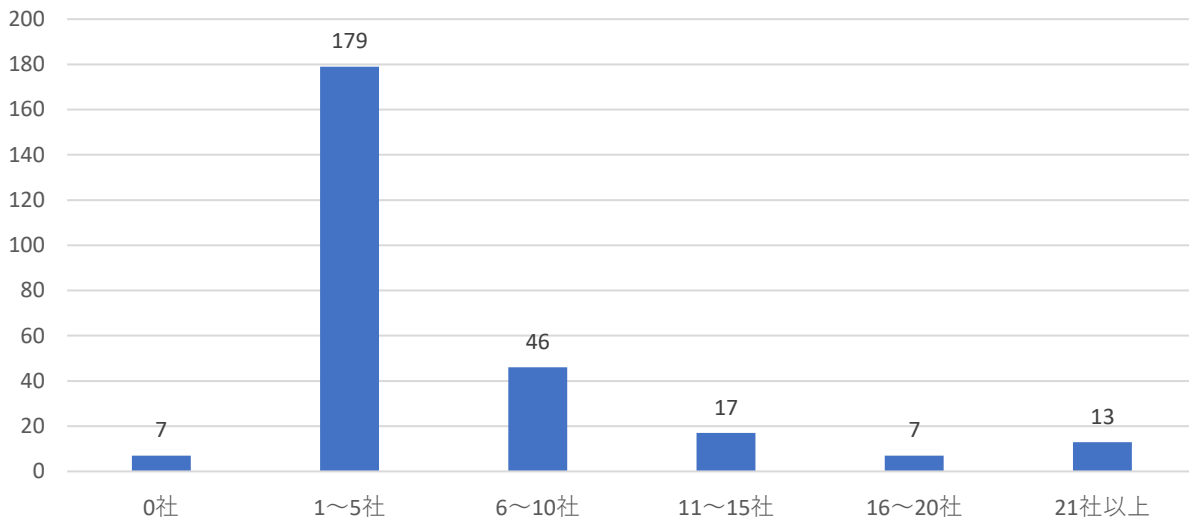
図1からオンラインでの選考経験者が多いのが伺える。7割以上の学生がすでに何かしらの接点を企業とオンライン上で持っているということになる。この数値に関しては新型コロナウイルスの状況も含め今後は維持されるのではないかと推測される。

オンラインでの説明会や選考会への参加状況（図1）

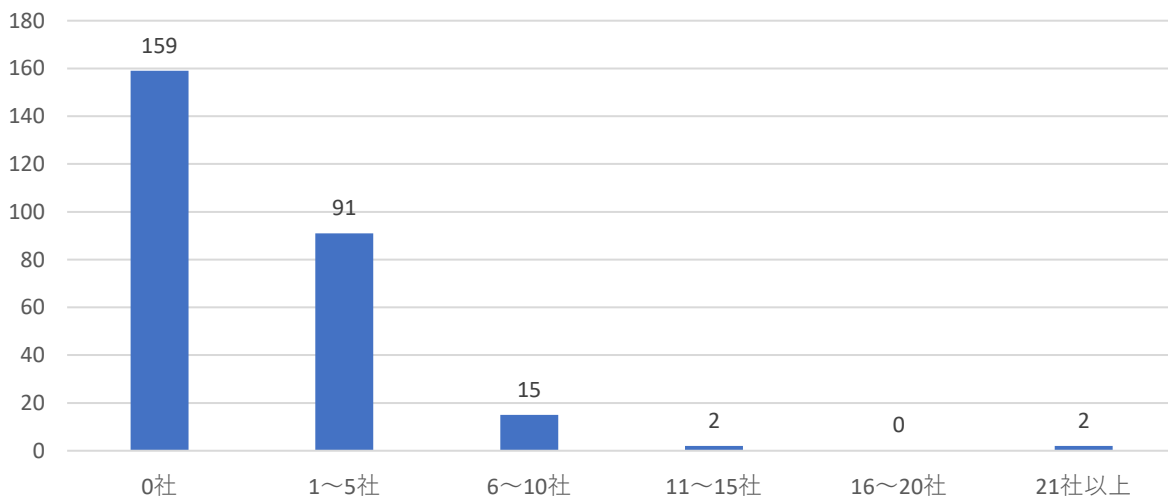


オンラインでの就職活動では説明会参加社数が選考参加社数に比べて多く、今後選考参加社数が増えていくことが予測される。例年と異なる点としては企業説明会が対面ではなくオンラインで行われることで、学生への魅力付けや企業理解がどの程度できるかによって、その後の選考に大きく影響すると予測される。次のページ図3でもわかるように、オンライン選考で学生が困っていることの2番目に「企業側（人事）とのコミュニケーションが取りづらかった」とある。ここでミスマッチを起こすことで、早く接点を持てている学生であってもその後選考に上がってこないという状況が想定される。

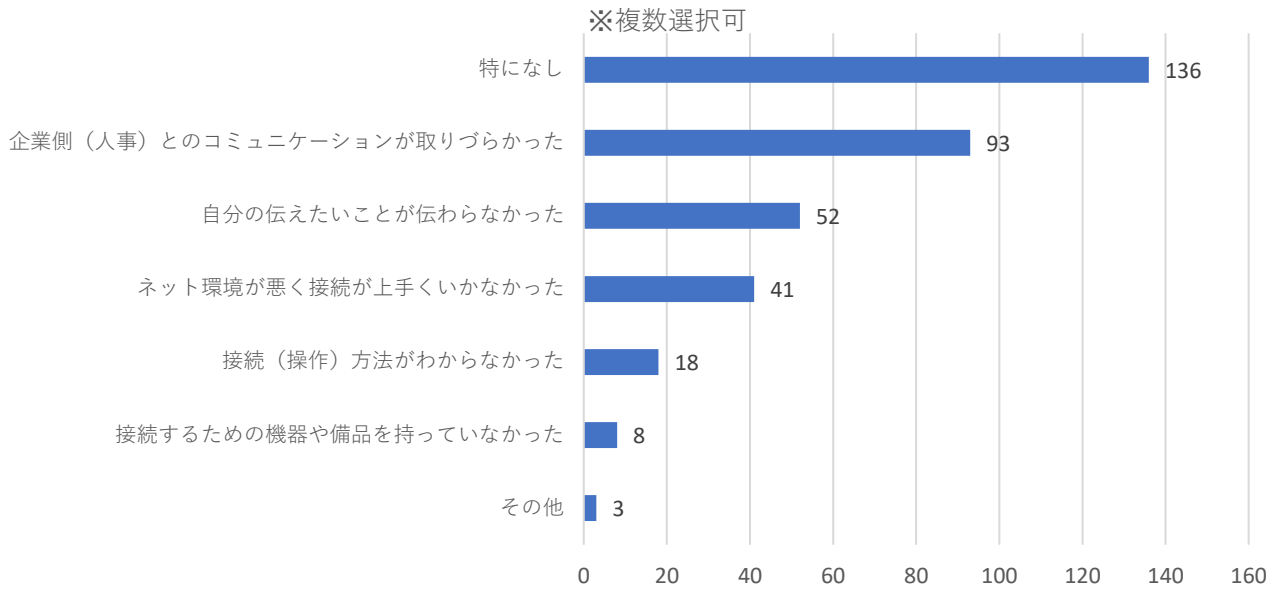
オンラインでの「説明会」参加社数について（図1）



オンラインでの「選考」参加社数について（図2）



オンラインでの説明会や選考で困ったことについて（図3）



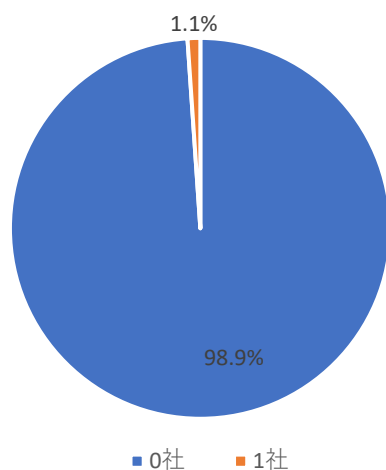
◆就職活動の決め手について

○内定保有について

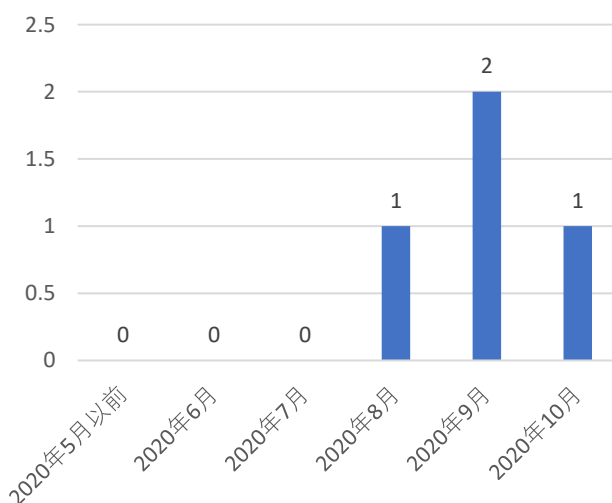
現時点で内定（内々定）を持っている学生は全体の1.1%（4名）である。人数としてはまだ少数であるが、3年生の秋に内定（内々定）を持っている学生は今後どのような就職活動をして行くのかもリサーチしていきたい。いずれの4名も3年生の7月までに就職活動をスタートしている。また現時点では就職活動を継続している状況である。

内定保有数について

※内々定を含む

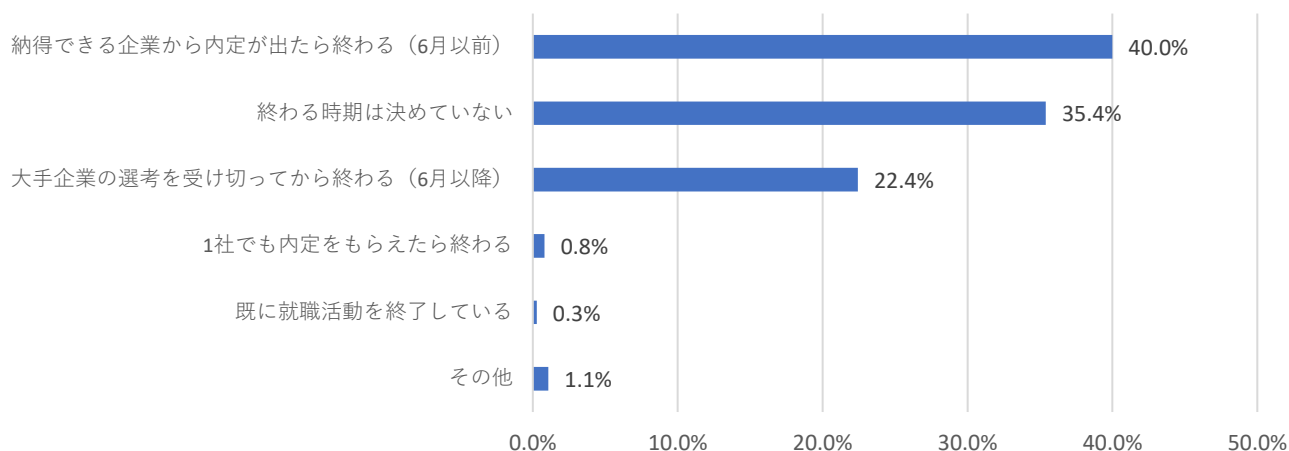


1社目の内定をもらった時期



ただ、大多数の学生はこれから本格的に就職活動をスタートしていき、就職活動を終了する時期についても決まっていない学生も多くいる。最も多いのが「納得できる企業から内定が出たら終わる（6月以前）」で40.0%を占めている。今年は特に、企業も学生の動きに合わせて前倒しで動いていく必要があると言えるだろう。

就活を終了しようと考えている時期

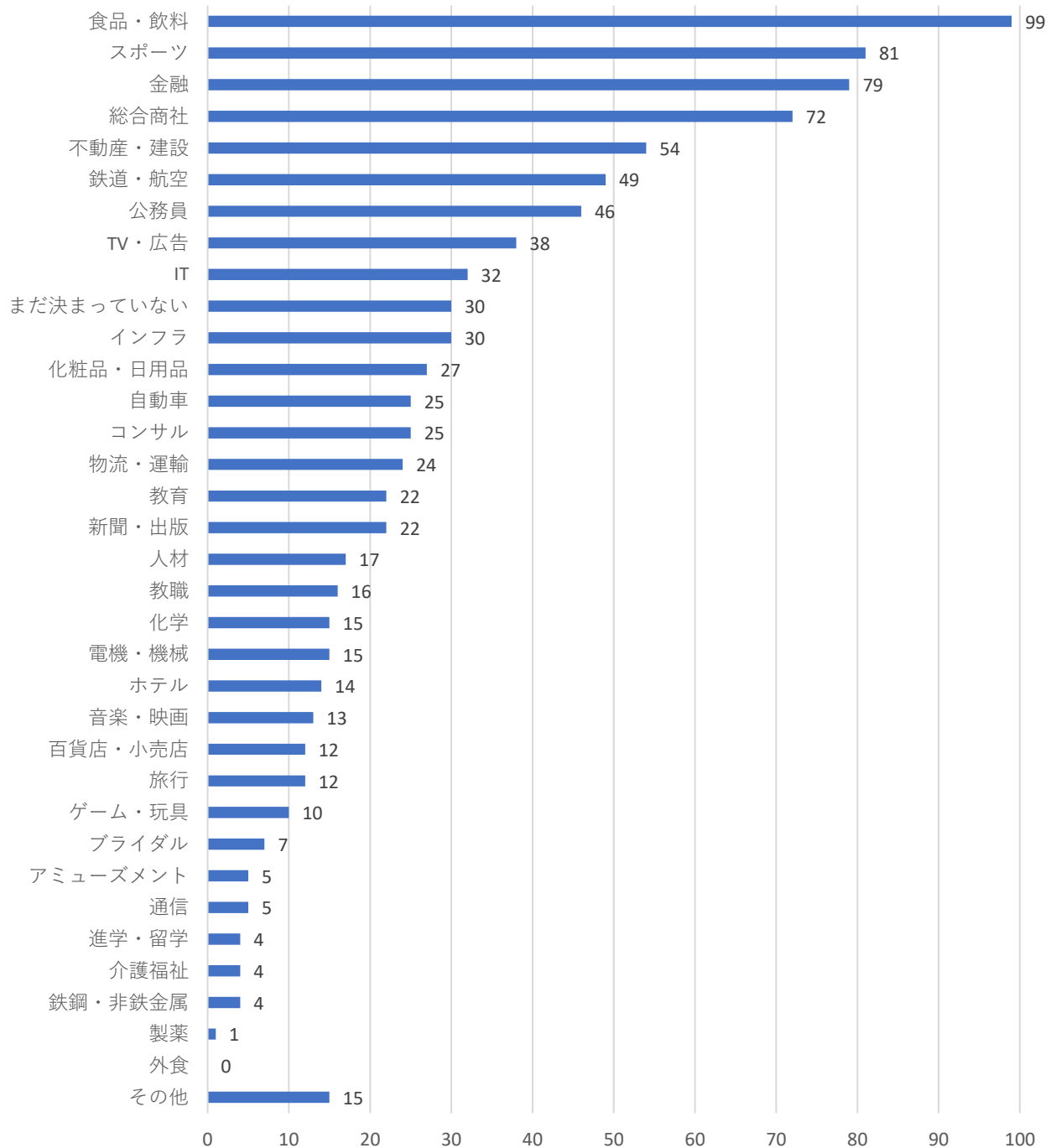


○企業の決め手について

志望業界については時期によって上位5位が入れ替わるような形になるが、例年と比べて大きな差はない。これから業界のイメージや働き方などに理解が深まっていった場合や、新型コロナウイルスによる経済ダメージを考慮した場合、どう判断し変化していくか動向を見ていきたい。

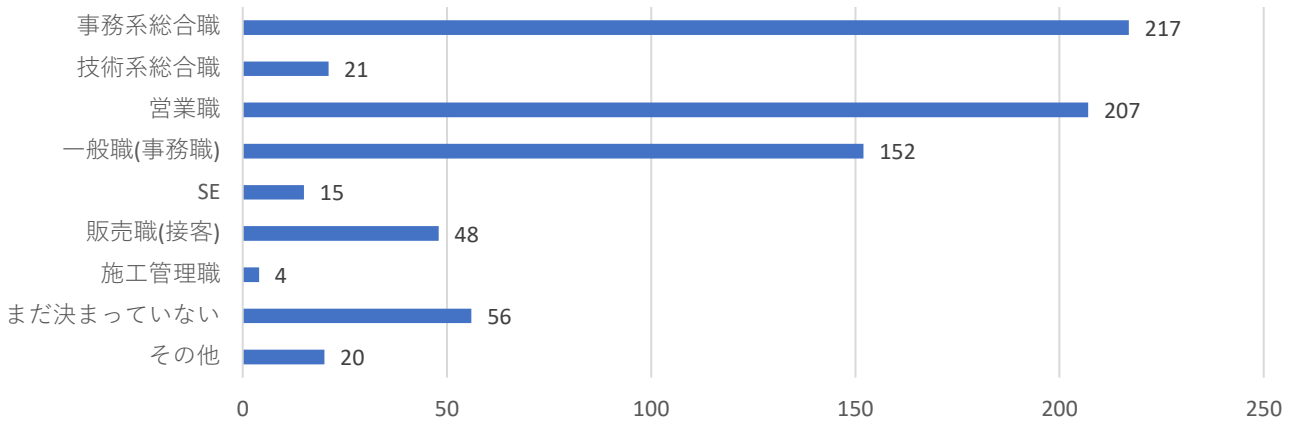
志望業界

※3つまで選択可



志望職種

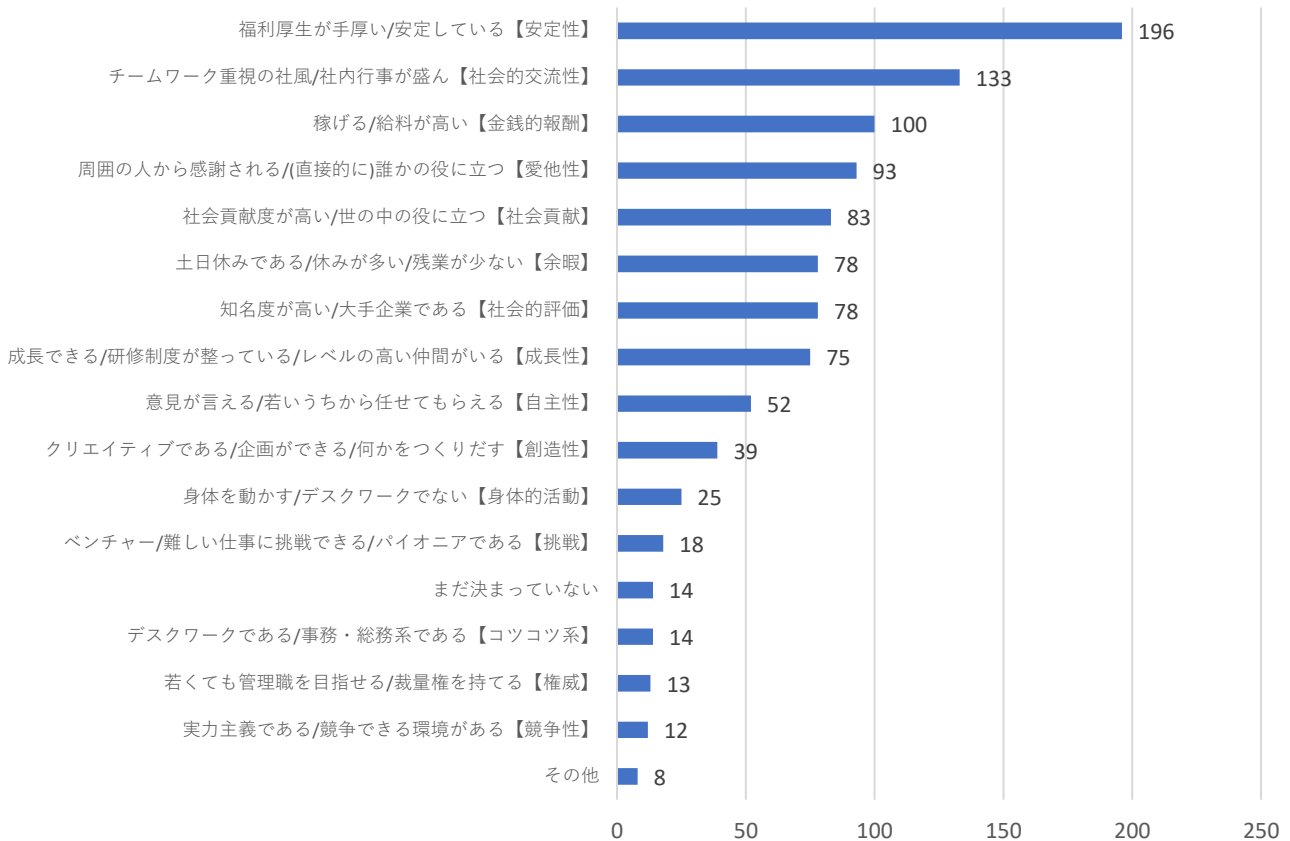
※3つまで選択可



企業選びの軸として、【安定性】を重要視していることが分かる。また【社会的交流性】が2番目に多い結果となり、イメージとして相反する【競争性】がその他を除き最も票が少なかった。かつて体育会学生のイメージとして競争心が強く実力主義で勝ち上がっていくタイプは全体的に減少している可能性が高い。

企業選びの軸

※3つまで選択可



新型コロナウイルスの影響を受けて大学に通学する機会が減り、対面授業を受けられていない学生も多くいる。そんな中どのように就職活動をおこなっているのか。体育会学生の特徴でもあるが、部活動の時間も含め「友達・同期」が最も相談しやすいことが言える。また、「先輩」も同様に就職活動の進め方などの話を聞くほかに、参考書等をもらうといったやりとりもあるようだ。

今後、多数の就職支援サービスを利用する機会や大学で実施される就活セミナーを通して変化が見られるかもしれない。

就職活動の相談相手について

※3つまで選択可

